

町制50周年記念号

平成20(2008)年 9月



【町制50周年記念号 目次】

あいさつ、ほか	……2～3ページ
わたしたちの町「明和町」、明和町の生い立ち、ほか	……4～5ページ
明和町50年の歴史（年表と写真で振り返る半世紀の軌跡）	……6～22ページ
明和町のまちづくり（第4次明和町総合計画から）	……23～25ページ
明和町民憲章、「人権尊重の町」宣言、ほか	……26ページ



教育長
西岡 恵三

副町長
明石 典男

町長
中井 幸充

元気なまち 信頼されるまち 明和町を目指して みんなが誇れるまち

わたしたちの町「明和町」は、昭和33年、三和町と斎明村が合併して誕生しました。そして、平成20年9月3日に「町制50周年」という記念すべき日を迎えます。

50年という半世紀にもわたる長き年月を振り返りますと、昭和34年の伊勢湾台風襲来など、さまざまな試練と苦難を町民の皆さんとともに乗り越え、今日の明和町に至っています。先人皆様方が心血を注ぎ、夢と情熱を抱いて「まちづくり」に取り組まれた成果が、今ここにあるものと思っています。

50歳の明和町は、人生に例えればまさに「壮年期」を迎えました。壮年期を迎えた明和町にとって、「住民力」「財政力」そして「組織力」、この3つの力が求められています。明和町の将来を見据えて、町民の皆さん・町議会・行政が一体となり、町が新たに生まれ変わるための第一歩を踏みだし、ともに歩んでいかなければなりません。

町行政の推進にあたっては、皆さんの意見を広く町行政に反映し、安全と安心の確保、また、商工業・農漁業の振興による地域の活性化、将来を担う若い人たちが存分に力を発揮できる環境を構築するとともに、「元気なまち・信頼されるまち・みんなが誇れるまち」の実現に向けて、開かれた各種施策の推進に努めていきたいと考えています。

明和町の50年の歴史を振り返り、そして将来への更なる発展を望み「広報めいわ町制50周年記念号」発行にあたってのごあいさつといたします。

町 章

昭和35(1960)年8月26日制定

明和の頭文字の「明」を「日」と「月」で表し、日は「威厳」、月は「慈愛」を意味し、天体のごとく丸く高く発展と向上を表しています。

また「月の直径は3、日の直径は2の割合、マークの太さは月の直径の12分の1」と定めています。



町制施行50周年を迎えて

町政の基本姿勢は

皆さんの生活が起点

町議会議員一同

本年、わたしたちの町「明和町」が、町制施行50周年という記念すべき年を迎えることを、町議会議員一同、心からお喜び申し上げます。

少子高齢化や高度情報化の進展、環境や災害など安心と安全の必要性、そして地方分権や国の三位一体改革の本格化など、今、地方自治体はかつてない「変革」を求められています。

しかし、町政の基本姿勢は、町民皆さんの生活が起点であります。町議会では、皆さんのご意見やご要望を伺いながら、わたしたちのまち明和町の住み良いまちづくりのために、その使命と責任を果たしていく所存であります。

町制施行50周年を迎え、町民皆さん一人ひとりのご健康とご多幸を、心から祈念いたしますとともに、今後、よりいっそうのご支援とご協力をお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



小林 茂之
無所属



間宮 一彦
無所属



伊豆千夜子
無所属



土屋 吉昭
無所属



議長
森島 啓之
無所属



脇田 千秋
共産党



大和谷 正
無所属



松島 孜
無所属



副議長
阪井 勇男
無所属



上田 清
無所属



乾 良市
無所属



中村 修
無所属



北岡 泰
公明党

(順不同、敬称略)

わたしたちの町

明和町は

豊かな自然と

歴史文化の町

わたしたちの町「明和町」には、緑豊かな丘陵地・森や農地、そして白砂青松の海岸地帯などの豊かな自然と、伊勢神宮ゆかりの国史跡「斎宮跡」をはじめとした歴史文化があふれています。

町の大半の面積を占める農地では、米やトマト・イチゴ・ダイコンなどが生産されています。また、伊勢湾沿岸地域では、アサリやバカ貝漁・黒ノリの養殖などが行われており、自然に恵まれた特産品が豊富です。

町の中央部に位置する国史跡「斎宮跡」は、その面積が137・1畝にも及ぶ、わが国でも有数の広大な遺跡です。

飛鳥時代から南北朝時代にかけて、およそ660年間存続したといわれる「斎王制度」。斎宮は、代々の天皇ごとに都から伊勢に派遣された「斎王」の御所であるとともに、その事務を取り扱った役人の役所でありました。このように、恵まれた自然と文化を、次世代に引き継いでいくことが大切です。

明和町の生い立ち

5つの村が

段階的に合併

昭和33年9月3日、三和町と斎明村が合併して「明和町」が誕生しました。

古くは江戸時代、明和町は皇大神宮領・鳥羽藩・紀州藩・津領に4分されており、このころから穀物の生産や漁業が盛んで、のどかな農漁村として栄えました。

明治4年の廃藩置県では度会県に属し、同9年の改廃により三重県となりました。

明治22年の市町村制度実施で、大淀村（大正13年に大淀町となる）・上御糸村・下御糸村・斎宮村・明星村が生まれ、松阪市の旧東黒部村とともに、6力村で多気郡の第1ブロックを形成していました。

昭和28年10月1日に施行された町村合併促進法が失効（昭和31年9月30日）するまでの間、県下で数多くの市町村合併が行われました。

明和町は、昭和33年9月3日に三和町と斎明村が合併してできましたが、それ以前の昭和30年4月1日に、大淀町・上御糸村・下御糸村が合併してできています。

一方、斎明村は昭和30年4月15日に斎宮村と明星村が合併してでき、さらに昭和31年1月15日に小俣町新村の

合併当時、町名の選定に当たっては合併申請手続きの時間が迫っていたため、差し当たり申請書に「神郷町」と名付けて提出しました。

昭和33年8月28日、全町域から町名を公募し、同月31日、公募の中から「明和」を採択しました。

「明和」は、斎明村の「明」と三和町の「和」を取ったもので、語感もよく、明るく発展の意味もあることから決定しました。

合併についての賛否表決を議会で行った結果、三和町が12対6（昭和33年7月）、斎明村が14対5（同年8月）でそれぞれ合併を可決しました。

そして、合併の条件・新町名などが決められ、昭和33年9月3日に「明和町」が誕生しました。

町名は公募で決定 斎明村の「明」と 三和町の「和」

一部（妻ヶ広）を編入しています。

5力町村が大合併しようとする機運は、昭和30年当時から醸成されていましたが、この案は一部の反対で断念しました。

そこで、国・県策に沿うべく、合併できるところからでも合併しようということになり、三和町と斎明村が段階的に発足したという経過があります。

合併当時の役場庁舎

この建物は、大正12年に建築され、昭和30年4月には三和町役場の庁舎として使用していました。

昭和33年9月に明和町が誕生した時には、暫定的に明和町役場の庁舎としても使用していましたが、その後に取り壊され、現在この跡地には大淀会館（大淀地区コミュニティーセンター）が建っています。



現在の役場庁舎

現在の役場庁舎は、昭和35年10月15日に完成し、同年11月1日から使用しています。

その後、数回の改築・増築工事などを経て、現在の姿となっています。

明和町の歴史

昭和33年～34年

HISTORY

明和町50年の歴史

昭和33年（1958）年～平成20年（2008）年

年表と写真で振り返る半世紀の軌跡

和33（1958）年

9月3日 三和町と斎明村が合併して明和町が誕生。庁舎は旧三和役場に決定。

9月28日 初代明和町長に辻 一雄氏公選。新町議会議員26人公選。

10月1日 町消防団組織を5分団24部制に改める。

10月6日 初の町議会が開かれ、初代議長に木戸口幸助氏、副議長に中西新兵衛氏が就任。教育委員会委員5人を選任。選挙管理委員会委員4人を選任。

12月17日 第1回全町部落長（自治会長）会が開催される。

12月29日 明和中学校校舎建設第1期工事に着工。

昭和34（1959）年

1月15日 第1回町民駅伝大会開催。優勝は斎宮Aチーム。

2月5日 第1回畜産共進会が開かれる。

3月31日 農業委員会委員42人決まる。

4月1日 町婦人会・青年団が結成される。

5月30日 明和中学校校舎第1期工事が完了。

9月26日 伊勢湾台風襲来。町内で死者5名・家屋全壊137戸・農地の流出冠水などの大被害を受ける。被害総額は10億円。

12月1日 民生委員32人決まる。

12月18日 明和中学校校舎第2期工事が完了。



初代町長に辻 一雄氏

昭和33年9月29日、初代町長に就任した故辻 一雄氏は、合併後の山積する諸問題の中から、統合中学校の建設・道路の整備・産業の発展を基本方針に掲げ、住みよい町づくりに取り組んだ



新町発足記念事業の1つとして、昭和34年2月5日に第1回畜産共進会が、旧斎明中学校校庭で開かれた。これは、年中行事の1つとして盛んに行われていたが、飼育農家の減少により、10年程で影を潜めた

明和町の歴史

昭和35年～38年

昭和35(1960)年

2月28日 2代目町長に山口龍三氏公選。

4月30日 新農山漁村建設総合対策事業による農事センターが完成。

8月26日 明和町章を町民から公募。厳選の結果、長谷川逸郎さんの作品に決まる。

9月8日 明和町商工会設立。

10月1日 国勢調査が実施され、町の人口は1万7390人。

明和町体育協会が発足。

旭ヶ丘幼稚園が完成。

10月15日 現役場庁舎が完成、11月1日に開庁。

11月30日 自衛隊による明和中学校校庭の整地作業が完了。

昭和36(1961)年

3月1日 有線放送施設が完成し、通話を開始。

3月31日 大淀海岸堤防が完成。

4月1日 千鳥・つぼみ両保育所が町へ移管。

4月10日 若竹保育所が完成。

5月30日 明和中学校校舎第3期工事が完了。

8月20日 第1回町民ソフトボール大会が開かれる。

10月1日 明和中学校・役場庁舎・農事センターの総合落成式。

第1回町民体育大会を開催。

昭和37(1962)年

3月8日 大淀港に灯台の灯がともる。

3月31日 上御系・下御系・修正小学校の給食室完成。

8月31日 双葉・曙幼稚園が完成。

9月23日 第2期町議会議員26人を公選。

昭和38(1963)年

3月31日 明和中学校体育館が完成。

7月15日 上御系小学校にプール完成。

8月15日 明星小学校にプール完成。

10月31日 大淀小学校校舎の起工式。



2代目町長に 山口龍三氏

昭和35年3月1日、
2代目町長に故山口龍
三氏が就任。引き続き
3代目も無投票再選



自衛隊による、明和中学校校庭の整地作業



有線放送電話は、完成当時180
回線（1回線平均20戸）・3040
世帯が加入していたが、現在は
廃止された



昭和36年3月に完成した大淀海岸の堤防



昭和36年10月、第1回町民体育大会で玉入れ
をする着物姿の皆さん

明和町の歴史

昭和39年～43年

昭和39(1964)年

- 2月28日 3代目町長に山口龍三氏再選。
- 5月31日 大淀小学校の新校舎完成。
- 8月1日 南藤原～斎宮駅間に三交バス路線開通。
- 9月15日 低開発地域工業開発促進法による開発地域の指定を受ける。

昭和40(1965)年

- 3月10日 大淀小学校に屋内体育館完成。
- 7月15日 明和中学校に50mプール完成。
- 10月13日 学校放送30周年記念、放送教育研究会三重県大会が明和町で開催。

昭和41(1966)年

- 1月31日 下御糸小学校に屋内体育館完成。
- 4月1日 松阪市外6力町村衛生共同組合(し尿処理)発足。
- 7月9日 県道祓川橋が完成。
- 7月18日 明和町観光協会を設立。
- 9月10日 下御糸小学校にプール完成。
- 9月25日 第3期町議会議員26人を公選。
- 10月31日 上御糸小学校に体育館が完成。
- 11月30日 斎宮小学校給食室の改築工事が完了。

昭和42(1967)年

- 1月16日 農免道路(明和中央線)事業第1期工事に着工。
- 3月20日 役場前開拓事業の排水路工事が完了。
- 4月24日 県道八木戸橋が完成。
- 7月19日 修正小学校にプール完成。
- 12月20日 町道の防じん舗装一部完了。

昭和43(1968)年 町制10周年

- 2月18日 4代目町長に木戸幸助氏公選。
- 3月31日 延長4708mの農免道路第1期工事が完了。
- 7月13日 大淀小学校にプール完成。



4代目町長に
木戸幸助氏

昭和43年2月28日、4代目町長に故木戸幸助氏が就任



昭和39年5月に完成した大淀小学校の新校舎



昭和39年8月、南藤原～斎宮間で、待望の三交バスが開通。テープカットをする故山口町長



昭和42年4月、県道八木戸橋が完成し、渡り初めが行われた



昭和40年7月、明和中学校に50m公認プールが完成。プール開きでは、東京オリンピックに出場した和田きみ子さんが、模範演技を披露

明和町の歴史

昭和43年～47年

7月22日 伊勢湾フロック漁協婦人部の県政教室が、大淀漁協で開催。
9月30日 明和中学校に給食室完成。
11月1日 町制10周年記念式典が行われる。

昭和44（1969）年

1月1日 県民交通災害共済制度が発足。
4月1日 斎宮小学校が、文部省から研究実験校の指定を受ける。

昭和45（1970）年

4月1日 明和町消防本部（常備）が設置される。
6月22日 竹川古里地区の試掘調査始まる。
8月17日 5力年計画で下御糸県営ほ場整備事業に着手。
9月20日 第4期町議会議員22人が公選。
12月22日 南勢バイパス（国道23号）のルート決まる。
12月25日 新都市計画法による都市計画区域の指定を受ける。

昭和46（1971）年

3月31日 町道主要幹線の舗装工事完了。
4月16日 祓川に架かる県道前野橋が開通。
5月 明和・小俣・玉城の3町合同のごみ処理施設（菊狭間環境整備施設組合）が業務開始。
6月30日 農免道路第1期舗装工事が完了。
11月1日 5歳以上の障がい者の人に、老齢福祉年金の支給を開始。

昭和47（1972）年

1月1日 児童手当の支給開始。
2月20日 5代目町長に吉田松雄氏公選。
4月1日 みどり保育所が開園。
5月16日 常陸宮ご夫妻ほか6殿下（妃殿下）が、神宮土器調整所・斎王宮跡などを見学。
8月27日 明和町郷土文化を守る会が設立される。
10月1日 明和町消防本部が「松阪地区広域消防組合明和分署」として発足。



5代目町長に 吉田松雄氏

昭和47年2月28日、5代目町長に故吉田松雄氏が就任。引き続き51年に再選、55年には無投票で3選を果たした

昭和45年4月、明和町消防本部が設置された



昭和47年5月、常陸宮ご夫妻・秩父宮妃・高松宮ご夫妻・三笠宮ご夫妻・寛仁親王のご一行が、神宮土器調整所・斎王の森・斎宮跡を視察され、約1,000人の町民が歓迎した

昭和45年8月に着手した、町で初めての下御糸県営ほ場整備事業。工事施行面積625ヘクタール・総事業費9億6800万円・5力年計画で行われた



昭和46年5月、明和・小俣・玉城の3町合同のごみ処理施設（1日に20トンの処理能力）が業務開始



明和町の歴史

昭和48年～51年

昭和48(1973)年

- 4月1日 70歳以上の人に医療費の無料化が実施される。
- 4月20日 伊勢神宮遷宮に臨時祭主となられた第三皇女鷹司和子さまが、斎宮跡を訪れる。
- 6月29日 町議会で暴力追放宣言の町を決議。
- 8月18日 全日本一般男子ソフトボール大会で、明和クラブが初優勝。
- 9月1日 上野地内に三重県立特別養護老人ホーム「明星園」が開園。
- 10月1日 2歳以下の乳幼児に医療費の無料化が実施される。
- 町歌が完成。
- 11月2日 三重県同和研究会が明和中学校で開かれる。
- 11月17日 暁幼稚園が開園。

昭和49(1974)年

- 3月 下御系に農協ライスセンターが完成。
- 4月12日 明和・多気・勢和・飯南・飯高の5カ町村が、飯多土地開発公社を設立。
- 9月22日 第5期町議会議員22人を公選。
- 11月15日 明和く五ヶ所湾を結ぶ南勢広域農道(サニーロード)に着工。
- 12月7日 隆子女王の墓で、女王の千年祭が行われる。

昭和50(1975)年

- 4月1日 伊勢・明和・小俣・玉城の1市3町のごみ処理場「伊勢広域清掃工場」が業務開始。
- 旭ヶ丘幼稚園・なりひら保育所が改築して開園。
- 4月30日 上御系営ほ場整備事業が農林省から認可を受ける。
- 10月7日 中南勢の産業振興の動脈的役割を果たす南勢バイパス(国道23号)が全線開通。
- 10月26日 みえ国体が開催され、男子ソフトボールで明和クラブが優勝。
- 12月1日 印鑑登録証明制度が、新しく手帳方式に切り替えられる。

昭和51(1976)年

- 1月26日 上御系土地改良区が設立される。
- 2月14日 双葉幼稚園が改築して開園。



昭和48年8月、明和クラブが全日本一般ソフトボール大会で優勝。同クラブは、昭和50年10月のみえ国体でも見事全国優勝(写真はみえ国体の様子)



昭和48年11月、明和中学校で開かれた「三重県同和教育研究大会」。県内各地から、教育関係者など約1,500人が参加



昭和50年10月、暫定2車線の南勢バイパス(国道23号)が全線開通



ダイコンのはさ掛け風景。昔は、まちのあちこちで行われていたが、最近では少なくなった

明和町の歴史

昭和51年～53年

2月22日 6代目町長に吉田松雄氏再選。
3月6日 明和町人権を守る会が発足。
5月17日 昭和48年から、幻を追って解明が続けられてきた斎宮跡が、試掘調査の結果、大学教授・文化庁の専門家らによって実在したことが判明。
7月21日 奈良時代のものと思われる遺構が、明星の水池で発掘される。

昭和52(1977)年

1月16日 町議会第1回臨時会で、町総合計画の基本構想を可決。
3月11日 町議会に斎王宮跡保存特別委員会を設置。
3月31日 中央公民館が完成。5月2日に落成式が行われる。
4月16日 斎宮県営ほ場整備事業が認可される。
5月14日 町人権モデル地区推進協議会が発足。
7月6日 町建物共済推進協議会が発足。
7月25日 明星の水池土器製作遺跡が、国の史跡に指定される。
7月31日 上御系小学校の新校舎が完成。
8月14日 大淀土地改良区が設立される。
10月15日 坂本く斎宮間を結ぶ広域圏道路が開通。
12月5日 斎宮土地改良区が設立される。
12月11日 第1回町民マラソン大会が開催される。

昭和53(1978)年 町制20周年

2月10日 明和音頭の歌詞審査が行われ、入選に中村 弘さん(松阪市)の作品が決定。
2月11日 3代目業平松の植樹祭が、大淀の業平公園で行われる。
3月5日 明和町青少年育成町民の会が結成される。
4月18日 町営住宅46戸(上御系団地36戸・斎宮団地10戸)が完成。
4月26日 町社会福祉協議会が、社会福祉法人として業務を開始。
7月6日 農構センター・庁舎の改築工事が完成し、落成式が行われる。
8月6日 新下御系橋が完成。
8月20日 町制20周年記念式典を中央公民館で開催。明和中学校体育館で明和音頭の発表会。



昭和51年11月のノリの初市。まるで札束が飛び交うような、威勢のいい風景



昭和52年3月、生涯学習や文化活動の中心的役割を果たす中央公民館が完成



昭和53年7月に改築・改装された役場庁舎と農構センター



昭和52年7月、国の史跡に指定された水池土器製作遺跡。(写真は51年7月の発掘の様子)

明和町の歴史

昭和53年～56年

(昭和53年の続き)

8月26日 斎宮小学校の新校舎が完成。
9月23日 第6期町議会議員22人を公選。
10月27日 斎宮跡が国指定の答申を受ける。

昭和54(1979)年

1月8日 斎宮跡の御館・柳原地内約2800平方メートルの全面発掘に着手。
3月11日 総合グラウンドが完成。11月にはナイター設備も完成。
3月27日 斎宮跡が国の史跡として保存指定を受ける。
4月1日 町社会福祉協議会に「善意銀行」を設置。
6月2日 斎宮跡調査事務所兼仮設展示館がオープン。
7月20日 公募の中から町の木に「榎」が決定。
8月11日 第1回町民納涼大会が開かれる。
8月16日 明和町を含む中南勢地域が「モデル定住圏」に指定される。
9月4日 下御系小学校が、県下一の健康優良校として表彰される。
10月19日 台風20号が直撃し、斎宮地区で20数戸が床下浸水。

昭和55(1980)年

2月17日 7代目町長に吉田松雄氏3選。
3月16日 母と子の自然と歴史の散歩道「斎宮跡の道」がオープン。
3月25日 担い手センターと斎宮幼稚園が完成。
4月1日 ねたぎりのお年寄り・重度障がい者の方を対象に、入浴・ふとん乾燥サービスを開始。
7月1日 「部落長」の呼称を「自治会長」に改める。
10月17日 曙幼稚園の新園舎が完成。
大淀献血会が発足。
12月1日 下御系献血会が発足。

昭和56(1981)年

1月31日 上御系小学校の校舎増築工事が完了。
2月8日 8代目町長に渡邊靖六氏公選。
3月31日 明星の水池遺跡に町民憩の森が完成。
4月7日 ささふえ保育所が完成。



8代目町長に

渡邊靖六氏

昭和56年2月8日、8代目町長に故渡邊靖六氏が就任



テニスコートを備えた町営の総合グラウンドが、昭和54年3月にオープン



昭和54年6月、斎宮跡調査事務所・仮設展示館がオープン



建設中の斎宮小学校の新校舎。手前は、明治2年に建設された旧校舎



国際児童年を記念して作られた「母と子の自然と歴史の散歩道・斎宮跡の道」が、昭和55年3月にオープン

明和町の歴史

昭和56年～59年

6月15日 町議会で「暴走族追放の町」宣言を決議。
7月25日 南部児童館が完成。
8月20日 明星小学校の新校舎が完成。
10月29日 下御系県道落成記念式典と記念碑の除幕式。

昭和57（1982）年

3月15日 大淀小学校と明和中学校の増築工事が完了。
4月1日 斎宮献血会が発足。
5月15日 大淀に「みえぎよれん大淀貝類集荷センター」が完成。
8月1日 台風10号襲来。暴風雨の中、笹笛川3カ所で約500人が水防作戦を展開。

9月19日 第7期町議会議員22人を公選。
10月12日 明星献血会が発足。

10月16日 水池遺跡で、みどりの少年隊結成式と愛林祭。

10月24日 健康ウォーク全国大会が「斎宮跡の道」で行われる。

10月25日 福祉センター・地域改善センターの新築工事、中央公民館大集会場改築工事が完了。

12月1日 上御系献血会が発足。

12月3日 明星土地改良区が設立される。

12月12日 9代目町長に辻 英輔氏公選。

昭和58（1983）年

1月24日 町社会福祉協議会が福祉バスの送迎を開始。

3月28日 史跡公園「斎宮跡」が完成。

斎宮婦人会有志の皆さんが、斎王の森で「第1回斎王まつり」を開催。

10月5日 斎宮小学校に町内初のアルミプール完成。

10月28日 東南アジアの使節団が町福祉センターを視察。

昭和59（1984）年

3月10日 修正小学校の新校舎と体育館が完成。

3月30日 広域圏道路が全線開通。

6月1日 美化センター（不燃物処理場）がオープン。



9代目町長に
辻 英輔氏

昭和57年12月12日、9代目町長に辻 英輔氏が就任。引き続き61年に再選、平成2年には無投票で3選を果たした

台風10号が昭和57年8月に襲来。堤防すれすれまで増水した笹笛川で、真夜中に約500人が土のう積みを展開



明星小学校（旧校舎）での下校風景。昭和56年8月には、新校舎が完成

老人福祉センターを利用してもらうと、昭和58年1月、社会福祉協議会が福祉バスでお年寄りを送迎



明和町の歴史

昭和59年～62年

(昭和59年の続き)

6月14日 斎宮跡発掘現場(西前沖)から、約6000枚の銅銭が出土する。

9月30日 修正小学校で、玄関前にタイムカプセルを埋設。このカプセルは50年後に掘り出される。

昭和60(1985)年

2月15日 松阪地区広域消防組合明和分署が新築移転。

3月30日 斎宮小学校校舎の増築・体育館工事が完了。

4月1日 飯南多気7カ町村の農業共済事業が合併して「飯多農業共済事務組合」を発足。

6月9日 第3回斎王まつりで「斎王群行」が再現される。

7月21日 上御糸小学校にアルミプール完成。

7月31日 漁免道路が完成、8月1日に開通。

8月8日 町行政改革推進協議会が発足、初会合が開かれる。

9月22日 町づくり推進委員会の初会合が開かれる。

10月1日 人材センターが開設。

10月11日 上水道事業に着工。

12月1日 明和町農協に農業機械銀行が発足。

昭和61(1986)年

1月25日 町行政改革推進協議会が「町行政改革大綱」を答申。

2月25日 下御糸小学校の新校舎が完成。

3月20日 有爾中地内に2つ目のライスセンターが完成。

4月1日 新しい国民年金制度がスタート。

9月21日 第8期議員20人を公選。

10月30日 伊勢市ほか6カ町村が加入する南勢広域斎場組合火葬場が完成、12月1日から業務を開始。

11月23日 10代目町長に辻 英輔氏再選。

昭和62(1987)年

3月5日 明星小学校の新講堂が完成。

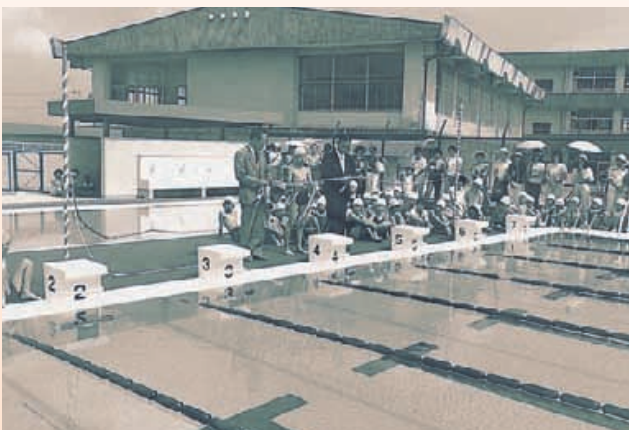
4月2日 飯南・多気郡7カ町村運営の老人ホーム「崇雲寮」が新築移転。



修正小学校の旧校舎。昭和59年3月には新校舎が完成



昭和60年2月、松阪地区広域消防組合明和分署が新築移転。敷地には訓練スペースを確保し、夜間照明も設置



昭和60年7月、上御糸小学校にアルミプールが完成。写真は、プール開きの風景



安心して飲める水の供給のため、昭和60年10月、上水道事業に着工。62年5月から、斎宮地区の一部に給水を開始した(写真は上村配水池)

明和町の歴史

昭和62年～平成2年

5月1日 齋宮地区の一部に上水道給水開始。
5月30日 浩宮さまが齋宮跡などをご見学。
7月25日 明星小学校にアルミプール完成。
8月6日 三重県消防操法大会小型ポンプの部で、明和町消防団チームが優勝。

昭和63(1988)年 町制30周年

1月20日 三重県が齋宮歴史博物館の建設に着工。
3月9日 町消防団が消防庁長官表彰(表彰旗)を受ける。
6月17日 町民憲章を制定。
7月6日 町の花に「ノハナシヨウブ(どんど花)」が決まる。
町制30周年記念標語・シンボルマーク決まる。最優秀作品にはそれぞれ北岡理都子さん(養村)・藤川洋子さん(松阪市)が選ばれる。
7月25日 明和工業団地の分譲が完了。
7月31日 修正小学校にアルミプール完成。
8月1日 大仏山に県営のスポーツ公園がオープン。

平成元(1989)年

2月20日 大淀三世古地区学習等供用施設(業平会館)が完成。
3月5日 新川橋が完成。
3月26日 町制30周年記念植樹祭。広域圏道路沿いに約1000本のヒラドツツジを植樹。
3月28日 町内74カ所にコミュニティ掲示板を設置。
4月23日 町文化協会が発足。
7月1日 財団法人国史跡齋宮跡保存協会が発足。
10月2日 多気郡内6農協が合併し、多気郡農業協同組合が発足。
10月18日 齋宮歴史博物館がオープン。19日から一般公開始まる。
10月29日 総合体育館落成式。
12月4日 大堀川橋が完成。

平成2(1990)年

1月31日 明和町が全国町村会から優良町村表彰を受賞。



老朽化が進んだ菊狭間火葬場。昭和61年10月には、1市6町村共同出資による南勢広域斎場が完成



昭和63年8月、明和・小俣・玉城の3町にまたがる大仏山にスポーツ公園がオープン



2カ年継続事業で行ってきた新川橋の架け替え工事が、平成元年3月に完了



昭和62年8月、県消防学校で行われた三重県消防操法大会で、明和町チームが見事優勝(小型ポンプの部)。写真は、訓練風景

(平成2年の続き)

5月7日 地域の活性化・個性と魅力あるまちづくりのため、ふるさとづくり推進委員会が発足。

7月31日 斎宮歴史博物館の入館者が10万人を突破。

8月30日 写真集「明和百景」を刊行。

9月15日 総合体育館で「はつらつ長寿フェスティバル」。県内各地から約2200人のお年寄りが参加。

9月23日 第9期町議会議員20人を公選。

10月1日 在宅福祉サービスの1つとして、デイサービス事業を開始。

11月23日 11代目町長に辻 英輔氏が無投票当選。

平成3(1991)年

3月31日 上御系地区コミュニティセンターが完成。

6月13日 ふるさと会館の落成式。落成記念として、総合体育館で「泥かぶり」公演も。

6月27日 上御系地区県営ほ場整備事業の落成式。

7月13日 ふるさと会館がオープン。

9月3日 下御系小学校ステンレスプールのプール開き。

10月1日 在宅障がい者デイサービスがスタート。

平成4(1992)年

3月25日 大淀・下御系地区のコミュニティセンターが完成。

7月17日 大淀小学校の講堂の落成式。

10月1日 斎宮苑自治会が、県下で初めて「違法駐車追放モデル地区」に指定される。

11月22日 総合体育館で国史跡「斎宮跡」シンポジウム。斎王まつりの群行テーマ曲や踊りの発表も。

平成5(1993)年

1月24日 斎宮跡で最大級の建物跡発掘。

3月31日 大淀小学校にステンレスプール完成。

4月14日 明和中学校の新給食室で調理開始。

大淀小学校など3校にコンピューター教室完成。



平成元年10月、斎宮歴史博物館がオープンし、19日から一般公開された



平成元年10月、総合体育館が完成し、記念講演や太鼓フェスティバルなどが行われた(写真は完成間近の総合体育館)



平成3年7月に、ふるさと会館がオープン。1階は図書館・2階は歴史民俗資料館(写真は工事が進むふるさと会館)



小学校の児童らにコンピューターを通じて楽しく学んでもらおうと、平成5年4月、大淀・斎宮・明星の各小学校にコンピューター教室が完成

明和町の歴史

平成 5 年 ～ 8 年

5月23日 明星地区コミュニティセンターが完成。
9月10～11日 王朝口マンフェスタが開幕。野外音楽群集劇「斎王夢語」に延べ3万人。
9月19日 斎宮地区コミュニティセンターが完成。
10月31日 全国育樹祭で、みどりの少年隊が表彰を受ける。アトラクションとして斎王群行も参加。

平成6(1994)年

3月24日 新し尿処理施設「松阪地区広域衛生センター」の落成式。
4月3日 全天候型5面の本格派、明和町テニスコートの落成式。
5月3日 斎王群行が、横浜みなと祭り国際仮装行列で、まつり博三重をPR。
5月12日 上水道北部第1水源の落成式。
6月1日 特別養護老人ホーム「やまびこ荘」が宮川村で開所。
6月30日 国道23号の4車線化が完了。
8月6日 まつり博三重の明和町デー。明和太鼓や斎王群行を披露。
9月19日 第10期町議会議員20人を公選。
11月23日 12代目町長に木戸口眞澄氏が当選。

平成7(1995)年

2月26日 人権を守る会が1995じんけんシンポジウム開催。
4月1日 下御系北処理区の農業集落排水事業に着手。
10月7日 斎宮博物館南で「さいくつ市(いち)」がスタート。
12月1日 国立療養所明星病院で創立50周年式典。

平成8(1996)年

2月8日 認定農業者制度がスタート。15人に認定証を交付。
3月22日 将来の町を見据えた「都市計画マスタープラン」が決まる。
3月26日 国営宮川用水第二期土地改良事業の計画決定。
3月28日 下御系小学校講堂の落成式。
3月28日 伊勢広域清掃工場でごみ焼却施設の落成式。
5月9日 明和町行政改革推進協議会が発足。
7月7日 明和町と南勢町を結ぶサニーロードが全面開通。



12代目町長に

木戸口眞澄氏

平成6年12月12日、12代目町長に木戸口眞澄氏が就任。平成10年・14年には、いずれも無投票で再選を果たした

平成5年9月に開催された王朝口マンフェスタ



“歴史文化資源の保存・活用とまちづくり”をテーマに、平成4年11月、国史跡「斎宮跡」シンポジウムが開催された



明和町ほか6市町村共同の松阪地区広域衛生センターが、平成6年3月に完成し、業務を開始

明和町の歴史

平成8年～11年

(平成8年の続き)

9月14日 ふるさと会館の入館者が30万人を突破。

平成9(1997)年

3月4日 福祉の拠点「明和の里」落成式。

4月1日 「明和の里」オープン。在宅介護支援センターも同時スタート。

11月1日 明和町など、伊勢市とその周辺町村の電話番号市外局番が「0596」に統一。

11月28日 坂本古墳群から、7世紀前半に造られた前方後方墳と金銅装頭椎大刀が見つかる。

12月15日 役場周辺(明和处理区)の公共下水道事業に着手。

平成10(1998)年 町制40周年

3月30日 明和町と松阪市を結ぶふるさと農道「新須田橋」が完成。

9月5日 町制40周年記念式典が中央公民館で行われる。

9月6日 町制40周年記念事業「ナイス40めいわソフトボール大会」を総合体育館で開催。300人が参加し、熱戦が繰り広げられる。

11月7日 町制40周年記念事業「ナイス40めいわ」と「みえ歴史街道フェスタ」を同時開催。記念植樹祭や親子巻きずし大会、物産展も。

11月22・23日 世界人権宣言50周年を記念して、人権フェスティバルが2日間にわたり開催される。

11月25日 13代目町長に木戸口眞澄氏が無投票当選。
第11期町議会議員20人を公選。

平成11(1999)年

3月19日 上御系小学校に新講堂が完成。

4月1日 町内各所にリサイクルステーションを設置し、ペットボトルなどの回収を開始。

6月5日 群馬県明和町(めいわまち)と友好交流提携に調印。
6月20日 東海3県で初、サンデー議会を開く。傍聴席は満席に。



明和町と南勢町を結ぶ広域農道「サニーロード」が、平成8年7月に全面開通



まちの福祉の拠点施設「明和の里」が、平成9年4月にオープン。在宅介護支援センターと老人・心身障害者サービスセンターを併設



平成9年11月、約1,400年前に埋葬された「金銅装頭椎大刀(こんどうそうかぶつちのたち)」が、坂本1号墳から出土



明和町と松阪市を結ぶふるさと農道「新須田橋」が、平成10年3月に完成

明和町の歴史

平成11年～14年

10月2日 いつきのみや歴史体験館がオープン。斎宮歴史博物館もリニューアルし、記念イベントで祝う。

平成12(2000)年

2月6日 人権センター完成。記念講演会も行われる。隣保館活動の充実とコミュニティーの拠点づくり。

4月1日 伊勢広域清掃工場にリサイクルプラザが完成。

8月13日 明和中学校第2グラウンドのクラブハウス完成。

11月11日 新下御系漁港が開港。ノリ種苗生産施設も同時完成。

平成13(2001)年

3月21日 町のシンボルの存在、旧陸軍の給水塔(高架水槽・高さ24メートル)が取り壊される。

4月1日 ごみの分別と減量化・資源化に向けて「指定ごみ袋」制度を実施。

情報公開制度がスタート。

7月6日 各地区コミュニティセンターなどで、市町村合併の説明・懇談会が始まる。

11月10日 明和町・松阪市・飯南町・飯高町・宮川村・大台町・勢和村・多気町・三雲町・嬉野町の10市町村で、松阪地方市町村合併検討会を設置。

平成14年(2002)年

2月15日 市町村合併に関する住民1000人アンケートを実施。

3月16日 市町村合併に関する全町自治会長意見交換・懇談会を開催。

3月23日 10分の1史跡模型の完成を記念し、上園芝生公園で斎宮浪漫まつりが開催される。

3月28日 池村地内に明和町環境センターが完成。

10月2日 第37回全国史跡整備市町村協議会大会が、3日間にわたり明和町で開催される。450人が全国各地から参加。

10月21日 明和町・多気町・勢和村・玉城町・度会町の5町村で、合併研究会が発足。



平成11年10月、いつきのみや歴史体験館が近鉄斎宮駅北側にオープン



平成12年8月、明和中学校第2グラウンドに完成したクラブハウス



平成12年2月、人権センターが完成

(平成14年の続き)

10月23日 いつきのみや歴史体験館の来館者が10万人を突破。

10月26日 市民活動サポートセンターがオープン。

11月17日 14代目町長に木戸口眞澄氏が無投票当選。

第12期町議会議員18人を公選。

平成15年(2003)年

4月1日 いつきのみや歴史体験館東の休憩所がオープン。

4月1日 障害者生活支援センターが開設。障がい者の相談支援の充実を図る。

4月1日 明和町・多気町・勢和村・玉城町・度会町の5町村で市町村合併任意合併協議会が発足。

5月17日 明星ほ場整備事業が完工、竣工式が行われる。

7月1日 個人情報保護制度を実施。

8月1日 明和町青少年指導員協議会が設立。

10月26日 市町村合併住民説明会を町内6カ所で開催。

11月1日 自主運行バス(町民バス) 試行運行開始。年中無休・1乗車100円で運行を開始する。

11月15日 明和町中央公民館に「フリースペース明和」を開設。児童、中・高生が安心できる「居場所」に。

12月25日 市町村合併任意合併協議会が解散。

平成16年(2004)年

1月20日 ふるさと会館で図書などのインターネット予約がスタート。

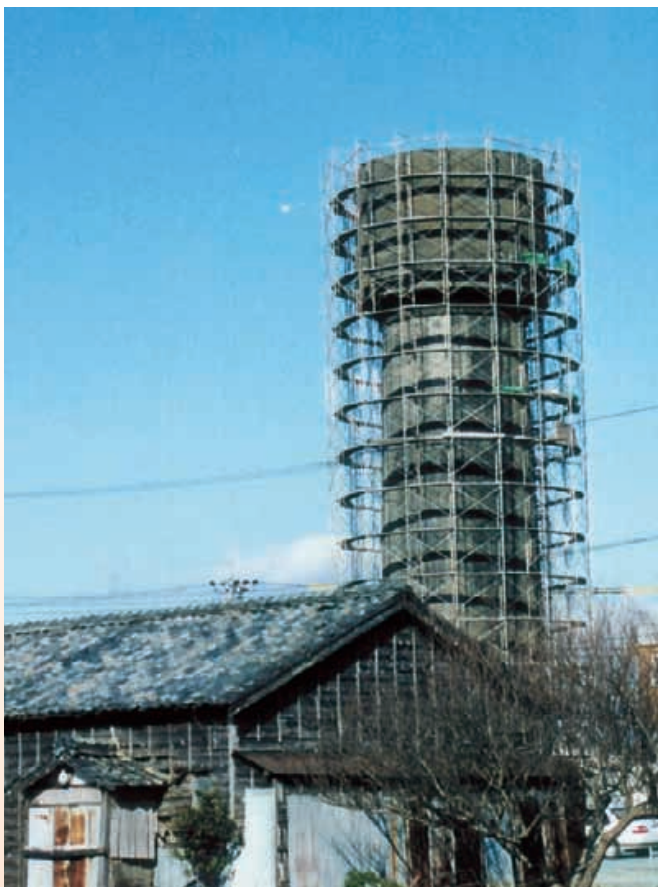
3月10日 公営住宅整備事業上御糸団地建て替え工事(第1期)に着手。

3月31日 明和町史「史料編」が完成。

5月4日 大淀海岸キャンプ場がリニューアルオープン。「大淀ふれあいキャンプ場」に愛称決定。

7月29日 松阪地区広域消防組合明和分署に、防災訓練センターが完成。

10月1日 北部第3水源地周辺を「水道水源保護地域」に新たに指定。



平成13年3月に取り壊された旧陸軍の給水塔。役場南側にあったこの巨大な構造物は「役場や中学校へ行くときの目印」として、町内外の皆さんに親しまれてきた。写真は解体工事中の給水塔



平成14年3月、いつきのみや歴史館北側に完成した10分の1史跡模型。完成を記念し、斎宮浪漫まつりを開催



平成14年3月、環境センターが完成

明和町の歴史

平成17年～19年

平成17年(2005年)

1月1日 松阪地区広域消防組合の明和分署が「明和消防署」に改変。
3月13日 社会福祉協議会障がい者通所授産施設「ありんこ」の竣工式
内覧会を兼ねて「ありんこまつり」も。施設は4月11日オープン。

4月11日 役場東側に明和交番が開所。

6月15日 公営住宅整備事業上御系団地建て替え工事(第2期)に着手。

10月1日 地域における子育てを支援する「明和町ファミリー・サポート・センター」を開設。

10月3日 明和土地改良区の開所式。町内5つの土地改良区が合併して明和土地改良区に。

10月31日 明和町史「斎宮編」が完成。

平成18年(2006年)

4月1日 大淀・下御系漁協を含む伊勢湾岸の5漁協が合併し、伊勢湾漁業協同組合に。

4月3日 老人福祉センターから保健福祉センターへ名称変更。

7月12日 イオン株式会社ジャスコ明和店と、大規模災害時における駐車場一時使用に関する協定を締結。

10月1日 地域活動支援センターを施設「ありんこ」内に開設。

明和町建設業協会と、災害時における応急対策業務に関する協定を締結。

10月27日 県道多気停車場斎明線バイパスが全線開通。

11月26日 15代目町長に、中井幸充町長が当選。

第13期町議会議員14人を公選。

12月20日 松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社と、災害時緊急送に関する協定を締結。

平成19年(2007年)

2月1日 イオン株式会社と、災害時における応急生活物資供給等に関する協定を締結。



平成15年11月、町民の皆さんのコミュニティ推進などを目的に町の自主運行バス「町民バス」が試行運行を開始

平成16年3月、明和町史「史料編第一巻」を発行。
平成17年10月には「斎宮編」、平成18年3月には「史料編第二巻・解説」も



平成16年5月、大淀海岸キャンプ場が「大淀ふれあいキャンプ場」としてリニューアルオープン。写真は現在の様子



障がい者通所授産施設「ありんこ」が、平成17年3月に完成

(平成19年の続き)

4月1日 町放課後児童クラブの運営を、明星放課後児童クラブ保護者会に委託。

ふるさと会館の管理・運営が指定管理者になる。

6月22日 公営住宅整備事業上御系団地建て替え工事(第3期)に着手。

7月20日 皇太子さまが斎宮歴史博物館をご訪問。国史跡斎宮跡の出土品などを見学される。

8月1日 防災関係機関等経験者の皆さんによる「明和防災ネットワーク」が発足。

10月6日 明和町再生プラン(案)をテーマとした町政懇談会(全14カ所)がスタート。

10月20日 めいわ市民活動サポートセンターで、防犯パトロール隊「青レンジャー」の出発式。

10月29日 町道前野・川尻線自歩道整備工事に着手。

平成20年(2008年) 町制50周年

3月 明和町再生プランを策定。

3月2日 日曜(窓口)開庁を試行スタート。

3月16日 美(つま)し国三重市町対抗駅伝の町の部で、明和町チームが8位と健闘。

3月28日 国道23号交差点改良などを含む町道明和中央線第4工区事業、2・7㍓の道路改良事業が完了。

3月31日 町制50周年の記念標語(キャッチコピー)が決まる。

4月1日 上御系・下御系地区農業集落排水事業に着手。

「後期高齢者医療制度」が始まる。

総合体育館など町の体育施設の管理・運営が指定管理者に。

5月28日 町制50周年ロゴマークが決まる。

6月20日 公営住宅整備事業上御系団地建て替え工事(第4期)に着手。

6月24日 町制50周年みんなで楽しもう補助事業の採択決定。

8月8～10日 町総合グラウンドなどを会場に、町制50周年記念協賛「中日本総合女子ソフトボール大会」開催。

9月 子育て支援施策として、みどり保育所増築工事に着手。



平成19年7月、皇太子さまが斎宮歴史博物館をご訪問



平成19年10月、めいわ市民活動サポートセンターで行われた防犯パトロール隊「青レンジャー」の出発式



平成20年3月から、日曜(窓口)開庁を試行スタート



平成20年3月、国道23号交差点改良を含む町道明和中央線第4工区事業、2.7㍓の道路改良事業が完了



国史跡斎宮跡の上園芝生公園

まちづくり

第4次明和町総合計画 (平成13~22年度)から

基本理念

まちづくりの指標として制定された明和町民憲章に基づき、町民、行政がまちづくりに向き合う姿勢として、基本構想の理念を次のように設定します。

新しい時代への飛翔

これは、21世紀における「新しい時代」を認識した上で、新しい発想に基づく「新しい明和」をつくる意思を表明するものです。町民と行政とがこの意識を持ってまちづくりに取り組むことで、美しく、魅力ある明和町が築かれることを願うものです。

まちの将来像 快適で活力ある 歴史と文化と緑のまち 明和

基本理念を町民、行政の共通の意識として持ちながら、将来に向けて明和町が目指すまちの姿を次のように設定します。

基本姿勢

快適で活力ある 歴史と文

変革・挑戦・行動と町民参加

将来像を実現するために、まちづくりに取り組む基本的姿勢を次のように設定します。

化と緑のまち 明和

この将来像は、明和町の恵まれた環境と、はぐくまれてきた文化とを生かし、明和町に暮らす人々が満足できるまちを目指すものです。

変革・挑戦・行動を大切に するまちづくり

町民参加による人づくり・夢づくり・まちづくり

やすらぎと憩いに 満ちた福祉と健康 のまち

福祉のまちづくりの推進

21世紀を明るく活力ある福祉社会とするため、地域福祉の充実を図ります。

「第4次明和町高齢者保健福祉計画」に基づき、高齢者が健康で生きがいを持って社会参加できるような環境を整備します。また、援護が必要な高齢者に対しては、尊厳を持つて地域で生活できるような支援体制を充実します。

障害者自立支援法のもと、新たな「明和町障害者福祉計画（仮称）」を策定し、だれもが家庭や地域でいきいきと安心して生活できる、人にやさしいまちづくりを推進します。

「明和町次世代育成支援行動計画」に基づき、だれもが安心して子どもを産み、育てられる子育て支援の社会の実現と、子どもの健全な育成を支える社会の実現に努めます。

児童虐待などの発生を防止するため保護者（親等）への心のケアを充実するとともに

に、保育所、幼稚園、学校、地域などが連携し、子どもを見守ることで児童虐待などの早期発見、早期対応に努めます。

社会保障制度の充実

高齢化の進展や疾病構造の変化、高度医療の普及などを背景として、医療費が増加します。このようなことから、適正な税の賦課に努めるとともに、健康水準を向上させるため、国民健康保険事業の円滑な運営を図らなければなりません。

また、「第3期明和町介護保険事業計画」に基づき、介護保険の的確な運用を図るとともに、介護予防事業の充実や地域密着型サービスの供給に努めます。

国民年金については、制度を周知し、理解を深めるよう、相談体制の充実を図ります。

生涯健康づくりの推進

地域保健体制や保健・予防対策の充実を図りつつ、だれもが身近なところで気軽にスポーツに参加できる環境をつくることにより、町民の健康

(24ページへ続く)

(23ページからの続き)

づくりを支援し、生涯を通じて心身ともに健やかで活力ある生活の実現を目指します。

人権を大切にする 心のかよったふれ あいのまち

差別のない、ともに生きる社会の形成

わが国の憲法にうたわれた「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利において平等である」という基本的人権の原則に基づき、だれもが互いの違いを認め合い、互いに尊重し合う社

会を目指し、あらゆる機会を通じて人権啓発・教育や各種事業による住みよい社会環境づくりを図ります。

連携に基づく地域社会づくり

町民だれもが自主的、積極的にまちづくりに参加でき、連携のもとで進める町民自治のしくみづくりを行い、参加と連携のもとでよりよい地域社会を築いていきます。また、町民一人ひとりが男女共同参画への意識を持ち、女性と男性とが互いの役割と責任を認識する中で、ともに社会に参画することにより、女性の意見が尊重され、能力が発揮で

きるまちづくりを進めます。

活力と発想と潤い に満ちた産業のま ち

地域特性を生かした農業・水産業の振興

景観保全や町土保全、農耕文化、自然循環機能など農業の持つ多面性を評価し、ほかの土地利用と調和した優良農地の保全を進めます。多様な担い手が農業生産の相当部分を担い、消費者ニーズに対応した創意工夫に富む農業生産体制を確立することで、本町農業の持続的発展を図ります。

また、計画的な漁獲量の確保や漁業基盤の整備、漁業組織の強化により、安定した漁業経営を促し、漁業者の生活の場を確立します。

創造的な企業活動の促進

地場産業の近代化と強化による振興をはじめ、職場環境の整備と保全に努め、企業間の交流を進めて町内産業の全体的な向上を図り、魅力ある就業の場を確保します。

また、事業所設置の推進に

より、産業振興と雇用機会の創設、地域の活性化を図ります。

地域資源を生かした商業・観光の振興

商工会を中心に商業の活性化を図るとともに、特産品の販売拠点となる施設の整備を促進します。また、地域の観光資源をさらに生かすために、自然とふれあう体験型観光拠点づくり、高度な情報発信システムの確立、町民が携わるシステムづくり、町外組織との連携、交流などを進めます。

時代に即した労働環境づくり

関係機関との連携のもとに雇用の安定を図り、勤労者が安心して働ける労働環境づくりを推進するとともに、ゆとりを持つて生活を送ることができるよう勤労者福祉の充実を図ります。

自然と調和したみ どり豊かな環境の まち

快適な居住環境づくりの推進

生物の多様性を極力維持

し、資源循環型の生活様式への啓発、誘導を図りつつ、調和のとれた居住環境を創造するため、まず、森林や海岸、河川、池沼などの基礎的条件となる自然の保全に努め、環境や景観に配慮したまちづくりを進めます。

さらに、公園、緑地の確保と整備、廃棄物の排出量の削減、下水道などの整備による公共用水域の水質の保全など、身近な地域から地球規模までの環境保全活動に努めていきます。

治水事業の面では、河川改修の早期完成を目指します。また、公営住宅の充実した住環境づくりを目指します。

災害のない安全・安心のまちづくり

町民が、安全に、かつ安心して生活を送ることができるよう、総合的な消防・防災体制の確立を図るなど、災害に強いまちづくりを進めるとともに、交通事故や犯罪に巻き込まれることのない安心して生活できるまちを目指し、地域ぐるみによる交通安全・防犯活動を進めます。

また、消費者が安全で豊か



人権センターの恒例行事「夕涼み会」の様子

な消費生活を営むことができないよう、消費者教育、啓発活動を充実するとともに、消費者団体の育成に努めます。

住みよく発展するまちの基礎づくり

農地や丘陵地、河川、集落などを一体的にとらえ、自然環境と田園景観の調和した土地利用を推進するとともに、道路ネットワークの充実を進めるなど、まちの機能向上を目指します。また、自転車歩行者道の整備による交通弱者の安全性の確保を図ります。

一方、情報通信技術の進展に対応した情報基盤の整備を進めることにより、町民がより充実した生活を送れるように努めます。

知性と感性をはぐくむ教育と歴史と文化のまち

地域全体で取り組む子育ての推進

家庭、地域、学校、幼稚園、保育所などが連携し、地域一体となった学習環境、子育てに取り組む体制をつくることにも、心を育てる教育を推進

し、21世紀を担う子どもたちの、心身ともに健全な発達を促します。

地域に開かれた幼稚園・学校づくりを推進し、地域における子育てや児童、青少年の健全育成の拠点として園や学校を活用しつつ、地域の声や人材が生かされる園・学校運営を目指します。

学習・文化活動の促進

豊かな心と生きがいをはぐくむ生涯学習社会の形成に向けて、生涯にわたって学びたい人がいつでも学べる環境づくりを推進し、町民の学習・文化活動がまちの個性や魅力につながるようなまちづくりを展開します。

町民による主体的な学習活動を展開するため、生涯学習プログラムや文化振興プログラムなど、町民参加のもとで活動を進めるしくみをつくり

地域文化の継承・創造と発信

明和町の個性であり、町民の誇りである文化財を後世へと引き継いでいくため、適切な保存を行うとともに、文化財や郷土に親しみを持てるよ

う、文化財の保護、保存、啓発に努めます。斎宮跡については、県、町の役割分担のもとで、保存団体や町民の協力を得つつ、土地公有化と調査、研究を推進し、史跡の活用を図ります。

文化財をはじめとして、様々な分野での町民レベルの交流活動を促進し、地域間交流、国際交流を通じて、郷土に対する認識や愛着を高めていきます。

新しい時代に対応した町政の運営

協働によるまちづくり

町民、企業などと町とが、明和町のまちづくりの理念と将来像を共有し、互いに自立、自主のもとに協働してまちづくりを進める気運の醸成と環境整備、機会づくりを行います。

そのため、町の広報・広聴活動や情報公開を充実し、まちづくりに対する町民、企業などと町との合意と信頼関係の形成に努めます。また、まちづくりについて、主体性と自主性を持った町民や町民組織などが行う地域活動の活発

化を促進します。

効率的な行財政運営

地方分権の推進にともなう新しい地方行政に対応することができるよう、事務事業の処理方法の改革、整備、職員

た、主体性を持った行政を進めます。そのため、地方分権に対応した町の組織、機構の整備充実と人材の育成確保、町民参加の促進、情報公開の実施などに努めます。

また、既存の一部事務組合における各種の広域事務事業への取り組みは堅持していくとともに、財政基盤の強化、多様化、専門化する行政需要への対応などについて、市町村合併を含め将来の行政体制のあり方について、町民の意向を第一義にして、対応していきます。

町税収納率の向上、町産業の活性化、企業誘致による税財源の創出など、財源の確保や充実にも努めます。また、町政全般について事務事業の見直しや内部経費の節減を進め、財政負担の軽減を行うとともに、「第4次明和町総合計画」に基づく計画的、選択的な施策、事業の推進に努め、財政の健全化を図ります。

地方分権への対応

地方分権の推進にともない、国、県、町の分担するべき行政の役割を明確にし、本町の特性を生かし



大淀海岸から見る日の出 恒例の「初日の出を見る会」

明和町民憲章

昭和63(1988)年6月17日制定

〈前文〉

わたしたちは、恵まれた風土とかけ高い歴史に誇りをもち、郷土の躍進を願って、この憲章を定めます。

〈本文〉

- 一、きずこう 希望あふれるあすの明和を
- 一、めざそう みんなの力で豊かな暮らしを
- 一、まもろう あたたかい心で自然と文化を
- 一、のばそう すこやかにともに高まる若い力を
- 一、ひらこう 世界と未来に心の窓を



町の木「マキ」

昭和54(1979)年7月20日制定
古来、明和町に多生し、常緑にして再生力強く、四季

に耐える。防火
防風のための生
け垣、庭園樹な
ど、その範囲は
広い。
また、公害や
病害虫に強く、
土質を選ばず、
樹齢は特にな
い。

非核平和の町宣言

平成3(1991)年9月17日制定

非核平和の町を次のとおり宣言する。

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかしながら、核戦争の危機は依然として存在し、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

われわれは、世界で唯一の核被爆国民として、また、永久に戦争の放棄を誓った国民として、人類が再び同じ過ちを繰り返さないよう核兵器の廃絶と世界平和の実現に努力しなければならない。

かけがえのない地球の平和と、愛と、命、そして美しい山河を守るため、わが明和町は、国是ともいうべき「持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則が平和を愛するすべての国の原則となることを希求し、ここに非核平和の町となることを宣言する。

「人権尊重の町」宣言

平成4(1992)年3月12日制定

「人権尊重の町」を次のとおり宣言する。

すべての国民は、日本国憲法のもとに基本的人権が保障されている。

しかしながら、われわれの周りには部落差別をはじめさまざまな人権侵害の事象が後を絶たないのが現状である。

すべての人が幸せに生きるためには、お互いの人権を尊重しあうことが必要不可欠であり、その実現のために努力をしていかなければならない。

よって、わが明和町は、すべての町民の人権が尊重され”明るく住みよいめいわ”を実現するため、ここに「人権尊重の町」を宣言する。



町の花「フナシヨウブ」

昭和63(1988)年6月17日制定
現在栽培されている花シヨウブの原種であり、この群

落が昭和11年12月16日、国の天然記念物に指定された。俗にどんど花と呼ばれ、古来斎宮の名花として知られている。

【明和町ホームページ】

URL <http://www.town.meiwa.mie.jp>

【明和町Eメールアドレス】

✉ soumu@town.mie-meewa.lg.jp (総務課)